

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和四年八月一日発行 第一〇一号

檀信徒の皆さまこんにちは。午前中のお寺はセミの声のシャワーを浴びているようで、知らぬ間に声が大きくなつてしまっています。

あつという間にお盆月がやつてまいりました。先月のお便りでは修行時代のお話を少し書かせて頂きました。その修行中に夏休みがあると聞くと意外と思われるかもしれませんが、お寺の息子が多く、どのお寺もお盆は忙しいのでその間は帰省をして棚経の手伝いをするようになっていきます。

私も初めてお檀家参りをさせて頂いたのは盆月の棚経でした。当時は一生懸命、立派に見える様にお唱えをしたつもりですが、今になってみるとたどたどしいお経に聞こえたかもしれません。一年目は、お檀家さんのお家も良く分からず、副住職という事もありお経が終わった後には身の上なども尋ねられ、予定を大きく遅れてお寺に帰ったのが夜の八時近くだったことを覚えていきます。

その時に一緒にお参りに汗を流していたお坊さんも先代の住職を含め二人遷化され、少しずつ世代交代をして今年も四人で周らせて頂いております。

今年から久住の板切観音寺のお孫さんにも加勢をいただいています。彼は今年の春、高野山大学を出て、今は専修学院で修行中です。

当時の私と比べると立派で、全く物怖じしない様に見えますが、やはり緊張もしていると思います。私も含め、若い僧侶は檀家様から育てて頂く所が大きいです。特に年少の頃は上野やご近所に伺わせて頂くしきたりになっています。どうぞ長い目で見て頂きますよう、宜しくお願い致します。

コロナ禍で季節の行事が出来にくい状況にあります。盆暮れ正月は家族でそろいたいものです。特にお盆はご先祖様もお迎えし、皆で手を合わせる貴重な年中行事です。私たちがお仏壇やお墓の前以外で手を合わせるという時は、誰かに何かをお願いする時、もしくはこちらの希望を叶えてくれた時、例えば大病をして手術が成功した時や子供や孫が無事に生まれてきた時にも思わず手を合わせる事と思います。つまり自分の願いが叶ったり、思いもしない幸運に巡り合った時に手をあわせませす。仏事で手を合わせる事も実は全くこれと同じことであることに私たちは気づかずにいるような気がします。

自分や子供の存在があるという事は、間違はなく命をつないで下さった「先祖」が居るという事です。自分には両親が二人いて、祖父母が四人、総祖父母が八人と言う様に数え、一〇代遡っただけで千二十四人、二〇代遡ると百四万八五七六人のご先祖様を数えることが出来ます。平均寿命が三〇才とすると二〇代で約六〇〇年。室町時代になります。

自分や子供・孫が存在するにはこの何百倍ものご先祖様が不可欠で、一人でも欠けてしまっていたら、それこそ今生まれていないのです。

その様に考えた時、月に一度、もしくは一年に数回は初心に立ち返る時間を持つ事は決して無意味な事ではないどころか、もしも現状に停滞感などを感じているのであれば、改善することにもつながると私は思っています。

お盆やお彼岸の日時のお問い合わせを頂いた時に変更を希望されるその理由が、「子供や孫が帰省してるから：」と言われるときがあります。色々なご都合があるのだろうと思いますが、なるべく都合を合わせるようにはしますが、私の願いとしては折角の帰省とご供養の日がちが重なったのであれば是非ともご家族皆さんとそろって手を合わせる時間にして頂きたいなと思っています。泣いていても多少騒がしくても全く構いません。逆に棚経でその様な場面に遭遇するとお仏壇の奥からご先祖様の喜ぶ顔が見えてくるような気がします。

中止

八月二十一日（日曜日）千巻心経

供養盆踊り

九月七日（水曜日）巡回御詠歌講習

八月の現時点でコロナ感染者の収束が予測できませんので残念ながら中止と致します。